銅・アルミ 市況見通し 10月

橋本アルミ取締役 橋本 健一郎氏レポート

銅

8月の伸銅品生産（速報値）は、前年同月比2・2%減の5万3710㌧で、8カ月連続のマイナスだった。わずかな差で前年実績に届かないが、マイナス幅は小さく、ほぼ昨年並みの生産量で推移した。

銅スクラップ景況予想

LME銅・為替予想

10月銅市況予想レンジ		
LME銅セツルメント	7000～8000㌦	弱い
電気銅建値	102～120万円	弱い
為替（1㌦）	140～145円（1カ月間TTM）	円安

アルミ

アルミスクラップ景況予想

10月アルミ市況予想レンジ		
LMEアルミ現物後継買い	2000～2200㌦（現物後継買い）	弱い
スクラップ	ゼロ円～プラス5円（新円地金価格より）	横ばい

リオティント カナダ拠点で脱炭素投資 金属チタン実証プラントも建設

サンメタロン 超高速金属3Dプリンター開発 資金8億円調達

アーレスティ 2期連続赤字も信用格付維持

アルコニックス三高 平和金属名古屋営業所の事業承継

米の露産アルミ禁輸検討報道 En+会長が声明

ケニアの衛生環境向上資金に LIXIL 自動水栓1台販売で1㌦寄付

会見には蛯田真子さん（一番右）と横澤夏子さん（同左）も登壇した

太陽光パネルのリサイクル技術 大阪でセミナー

三協立山 小学生「未来のとびらコンテスト」金賞4作品を決定

金賞の「忘れ物をしてたら開かんドア（アカンドア）」

風洞実験サービス開始 オリックス・レンテック

JOGMEC ニュース・フラッシュ 石油天然ガス・金属鉱物資源機構

DRコンゴ：Alphamin Resources社、2022年上半期の錫生産量を6,200㌧以上と発表

2022年8月10日付けメディアによると、2022年7月末に発表された加・南アAlphamin Resources社の運営・財務報告書は、2022年第2四半期の錫生産量を3,180㌧と報告した。これにより2022年の上半期の錫生産量は6,241㌧になったと明記している。この業績は対前期比4%の増加を示しており、Alphamin Resources社は2022年通年の錫生産12千㌧という目標を達成する水準となっている。しかし、EBITDAは2022年3月末の93.1m㌦から同年6月末には67m㌦に減少しており、中国の経済活動の減速を背景に、錫の平均販売価格が第1四半期の43,834㌦/㌧から第2四半期は35,345㌦/㌧に低下したためと思われる。Alphamin Resources社はDRコンゴ東部のNorth Kivu州WalikaleテリトリーでBisie錫鉱山を操業している。現在、Mpama North鉱床において操業しており、同時にMpama South鉱床で資源量算定、PEA策定等の開発計画に取り組んでいる。生産物は全て金属取引業者の米Gerald Metals社に販売されている。Alphamin Resources社は2021年に世界の供給の4%に相当する合計10,969㌧の錫を生産した。

（2022年8月17日　ヨハネスブルグ　業務政臣）

DRコンゴ：2022年第1四半期の銅、コバルトの生産量が急増

2022年8月11日付けメディアによると、アフリカでトップの採掘量を誇るDRコンゴの銅生産量が2022年第1四半期に51%急増、コバルト生産量も37%増加したことが、7月23日付け中央銀行の統計で明らかになった。統計では、DRコンゴは2022年1～3月、銅572,983㌧、コバルト28,990㌧生産した。金の生産量は同期間中に4.4%増加し7,797㌔㌘となった。

（2022年8月17日　ヨハネスブルグ　業務政臣）

米：Taseko Mines社、米当局からAZ州Florence銅プロジェクトのUICに関する許認可草案を受領

2022年8月15日付けのプレスリリースによると、加Taseko Mines社は、AZ州で計画中のFlorence銅プロジェクトにおいて、地下注入管理(UIC:Underground Injection Control)に関する許認可草案を、米環境保護庁(EPA)から受領した。この許認可は、同プロジェクトの商業施設の建設と操業を行う上で必要な最終許認可である。EPAはパブリックコメントを2022年9月29日までの45日間に亘り行うとともに、同年9月15日にオンライン公聴会を開催する予定である。

同社は地下の酸化銅鉱体に直接溶媒を注入し、浸出液からSxEwで銅分を回収する地下注入管理(UIC)と呼ばれるin-situリーチングを提案している。地下水の汚染を懸念するFlorence市当局は、長年プロジェクトの中止を訴えてきたが、敗訴している。同プロジェクトは、北米でもエネルギー及びGHG強度が最も低い水準になると期待されている。

なお2021年11月に、EPAはin-situリーチングに関する最初の許認可草案を発行している(2021年11月25日付 ニュース・フラッシュ:Taseko Mines社、米当局からAZ州Florence銅プロジェクトのin-situリーチングに関する許認可草案を受領参照。

（2022年8月17日　バンクーバー　武市知子）

チリ：加Wealth Minerals社、独Thyssenkrupp社とOllague Salarリチウムプロジェクトの戦略的パートナーシップを締結

2022年8月9日付けで加Wealth Minerals社は、独Thyssenkrupp社とOllague Salarリチウムプロジェクト(Antofagasta州)に関する協力及び開発契約を締結したと発表した。この戦略的パートナーシップは、以下を目的とする

▽同プロジェクトのリチウム抽出及び処理のため、最も有益で環境的に持続可能な処理技術を特定、評価及び適用する。

▽同プロジェクトを探査段階から高純度リチウム製品の商業規模の生産段階まで発展させる。

▽グリーンマイニングの新しい基準を定義し、チリの地域社会の関与を促進する。

（2022年8月18日　サンティアゴ　兵土大輔）

チリ：政府、Ventanas製錬所の閉鎖が可能となる法案を下院議会に提出

2022年8月9日付け地元メディアは、政府が法No.19,993を改正する法案を下院議会に提出したと報じた。同法が改正されれば、Ventanas製錬所を閉鎖することが可能となる。Marcela Hernando鉱業大臣は、同製錬所の閉鎖を進めるために同法案提出は重要な一歩であると説明している。政府は、「法No.19,993の改正は、環境保全のために必要である。同製錬所があるQuintero Puchuncavi工業地域の気象条件は悪いことから、同製錬所に投資しても、ガスが大気拡散されず下層に溜まり、周辺のガス濃度の高い状態が続くであろう。世界最先端の技術導入のために同製錬所に多額の投資をしても、社会環境問題及び大気条件が原因で、排出量削減目標の達成を保証することはできない。また、新たな環境緊急事態の発生も回避できないだろう。このような状況で、同製錬所は岐路に立っている」と述べている。

（2022年8月18日　サンティアゴ　兵土大輔）

チリ：ENAMI、鉱業省へリチウム開発の特別操業契約を要請

2022年8月10日付け地元メディアは、ENAMIがリチウム産業開発に向けての第一歩を踏み出し、中期的にはリチウムを開発するために、Marcela Hernando鉱業大臣、Willy Kracht鉱業次官に対し、特別操業契約(CEOL)の実施を要請する書状を手交したと報じた。ENAMIは、いくつかの段階に分かれる開発戦略を考えており、2028～2029年までに操業開始を見込んでいる。操業に関しては、環境と水への影響が少ない新しい技術が導入される。同鉱業大臣は、「ENAMIによるリチウム生産はわが国によるリチウム開発の初期段階で、政府として検討している戦略の一つである。ENAMIにとって、非金属鉱業に進出することは大きな課題であり、持続可能で環境に優しい鉱業開発は、国として抱えている課題の一つである」とコメントしている。

（2022年8月18日　サンティアゴ　兵土大輔）

ペルー：持続可能環境投資許可庁(SENACE)、San Cristobal亜鉛鉱山等の設備改善を目的とする技術根拠報告書(ITS)を承認

2022年8月15日付け現地紙によると、同月11日、持続可能環境投資許可庁(SENACE)はVolcan社に対して、San Cristobal亜鉛鉱山(Junin州)やMahur Tunel選鉱プラントの操業改善を目的とする6度目の技術根拠報告書(ITS)を承認した。ITSでは、ボーリングコアの切断やロギングを行うための新たなエリアのほか、コアや鉱石保管所等の補助設備の建設等が計画されている。

（2022年8月18日　リマ　初谷和則）